

全体授業研究会⑥(1年)振り返りより



平成26年12月11日
白島小学校 研修部

1 子どもの気付きの意味

- 子どもが変わっていくと思うと、子どもの気付きやつぶやきなどを生かすことができるようになりたいと強く思いました。
- 子どものつぶやきや発言から活動をつなげていけるといいな思った。
- 奥村先生の話の中にあつた気付きは、子どもに気付いてほしいものが強くあると、教師からの誘導になることもあると思ひました。気付きは、子どもから出されるものなので、教師の準備をがんばろうと思ひました。
- 指導案に当たり前のよう、「気付く」と書いていましたが、「気付き」の深さと大切さを学びました。気付きがずっと続く「ふるまい」に変わっていくような教育活動や授業がしたいです。
- 子どもへの適切な言葉掛けで、子どもの本音、子どもの多くの意見を引き出すことができることを改めて感じました。
- 生活科は、「気付きを大切にすること」、「受け止めること」が大切だと話されていましたが、各教科や日頃の学級経営にも言えることだなぁと思ひました。子どものつぶやきを発問につなげることやペアトークで比較する活動を入れるなど、学び合いを活発にする観点を自身の実践にも取り入れていきたいです。
- 「いいね」、「すごいね」、「なるほどね」が子ども同士や子どもと先生の間でたくさん行き交う授業は、参加して楽しいだろうと思ひます。

2 ねらいと授業づくり

- ねらいをはっきりさせる大切さを感じた。
- 「今日の授業で目指すこと」を明確にして、全員がそのゴールを目指すための手立てや事前の授業等を組み立てていく必要性を感じました。子どもたちの思考がどのように動いていくのかを想像する力や見とろ力を大切にしていきたいです。
- 学習問題にきちんとむかわせていくためのワークシートのつくり方。

3 学習規律と学級経営

- 学習規律や学級経営について、学ぶことのたくさんある授業でした。澤田先生のあたたかい人柄が学級内にあふれており、担任の雰囲気や言葉遣いや表情の大切さを実感しました。一人一人の言いたいことをくみ取り、受け止めて、つなげていきながら、授業を進めていきたいと思ひました。
- 子どもがのびのびと発言し、あたたかい雰囲気の授業でした。「いいね。」、「すごいね。」、「なるほどね。」を、明日から実践していきたいと思ひます。
- 一つ一つを丁寧に考え、いつもあたたかく授業をされていることが伝わってきました。
- あたたかい雰囲気の授業、ありがとうございました。子どもたちの聞く姿勢・話す姿勢が立派だと思ひました。
- 子どもひとりひとりを大切にされている澤田先生の姿勢に、学ぶところが多かったです。「よかった」がある授業が広がって、生活の中でも、「よかったね」が増え、子どもの自己肯定感が高まればいいなと感じました。
- 1年生が大切に育てている学習規律、話すこと・聞くことが上の学年の学び合いを支えている。

4 研修会・協議会のあり方

- 点数を付けることで、よい点と改善点が見えてきて、よかった。
- 協議会では、具体的な児童の様子をずっと見ていたので、学び合い、発言の課題、ワークシートへの書き込みの課題がよく分かった。同じような課題を持つ子が学級にいとと思うので、改善点について、グループの先生方と考えを共有できた。

徒然なるままに…24



平成26年12月11日
白鳥小学校 研修部

—家族とともに生きる意味に迫るために—

街中のクリスマスイルミネーションが華やかとなる一方、急にどこからともなく出てきて理解に苦しむ衆議院議員選挙の殺伐とした空気に、複雑なものを感じています。皆さんは、いかがお過ごしですか。選挙は、どのような結果となるのでしょうか。私たちの生活にも学校現場にも、大きな影響を与える選挙となりそうなので、私たちもしっかりと見極めなくてはならないと思います。

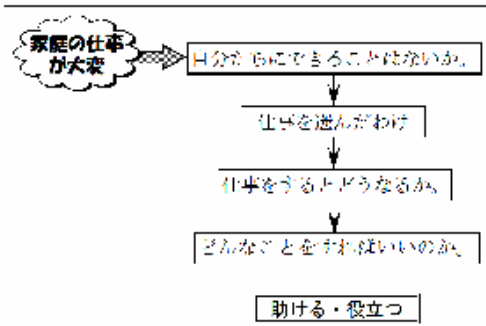


さて、今回は、1年の提案でした。授業者の澤田先生は、早くから準備を始められ、授業への思いや単元構成、本時の活動について、いろいろと悩まれながら取り組んでおられました。その姿に、あらためて授業づくりの難しさを感じました。お疲れ様でした。

今回の授業から、次の三点について考えました。

1点目は、ねらい—問い—思考のつながりです。本時は、授業者の思いとして、「家庭の中でできることをする意識を持ち、それを見つけること」がねらいであったと考えられます。しかし、大半の子どもたちは、家族といっしょにした仕事から、したい仕事を見つける活動に留まってしまったのではないのでしょうか。

とすると、親だけに任せていては、大変であることに気付いた上で、「自分たちにできることはない。」と問い、仕事をした結果に着目して、自分ができそうな仕事を選び、その理由付けをする思考が必要だったと考えられます。つまり、仕事を選んだわけと仕事をするとうどうなるかを考え、それを整理することを通して、したいからだけではなく、家族を助ける、役に立つという仕事をする本来の目的に気付くことができたと思います。(〈資料1〉参照)



〈資料1:本時の問い—思考の流れ〉



2点目は、家庭の中で仕事をする意味です。これは、本時のねらいと深く関わっています。今回の子どもの発言からも考えてみると、大きく三つの段階があると思います。

1段階目は、「褒められたい。」という外発的な動機や「やってみたい。」という興味といったレベルです。これは、自分のために仕事をして喜びを感じる域です。

２段階目は、家族の仕事の様子から、家族を助けようとする意識を持つレベルです。これは、家族のために仕事することに喜びを感じる域です。

３段階目は、家族の一員として、家庭での自分の役割を担うレベルです。自分のしなければならない仕事(役割)を自覚し、家庭の中で役立つことに喜びを感じる域です。

今回の授業で、多くの子どもから挙げた、仕事を選んだわけは、「喜んで欲しい。」でした。また、保護者の思いとして、「仕事をしてくれると、化粧をする時間ができ



る。」とか「布団を敷いてくれると、旅行気分になれる。」などが挙げられていました。しかし、これらは、保護者の都合からのもので、家庭での役割を担うという観点から外れている気がします。家庭の中でできることを見つけ、助けたり、役立ったりすることに家族が喜びを感じるとともに、自分が家庭の中で役割を果たせたことに喜びを感じられるようにすることが必要なのではないのでしょうか。

キャリア教育では、適切な職業意識と働く意欲を持つことが求められています。その根本は、「自己実現」できることだと考えています。「働くこと」を、社会の中で人のために役立つ仕事をしなければならないといった義務感としてとらえるのではなく、したいことを見出し、自分の特性を生かしながら自分の役割を担うことに喜びを感じることでとらえ、自己実現できる人を育てることが大切だと思います。今回の単元では、当然、そんなところまでねらっているわけではありませんが、１年生の子どもなりの家庭の中での役割と自己実現を感じられればと思います。

三つ目は、家庭を取り込む難しさです。これは、協議会でも挙げられていたことです。



以前、４年生で、生まれてからの１０年間を振り返るために、自分の誕生について母親に聞き取りをさせると、母親に「あなたは、欲しくてできた子どもではなかった。」と言われ、子どもがショックを受けたという話を聞いたことがあります。あるいは、母親が実の母親であるとも限りません。

今回の単元に限らず、いろいろな学習で、家庭や家族に立ち入ることがあります。しかし、家庭の状況、家族の形態や関係は、多様であり、固定的にとらえることはできません。私たちは、このことを理解しておかなければなりません。先生方は、十分ご承知のこととは思いますが。

１２月２６日の校内全体研は、関西大学の黒上先生をお招きしての「思考スキル」・「思考ツール」の研修です。押し迫ってるのに、まだ研修するののかという気もするでしょうが、せっかくの機会ですので、ぜひ、ご参加ください。当日は、学年ごとに、活用の様子や悩みなどについて、簡単にお話いただこうと思っています。実際に演習を取り入れるなど、ざっくばらんな雰囲気での研修にしたいと思います。